

Inter BEE Content Forum 2012 映像シンポジウム

日 時：2012年11月15日(木) 14:00～17:00
会 場：幕張メッセ 国際会議場 2階「国際会議室」
聴講料：3,000円(消費税込) ※学生無料

“宇宙から見る地球は、本当に美しい”。宇宙からの映像を見るたびに、私たちは夢やロマンを感じる。ISS(国際宇宙ステーション)におけるNASAのHDTV宇宙映像システムや、月や火星を目指した新しい映像システム開発への挑戦、JPL(ジェット推進研究所)からは、NASAの火星探査機から送られてくる画像データの映像化など、研究とアウトリーチに向けた宇宙映像生成の最新状況を紹介します。NHKの「宇宙の渚」では、超高感度ハイビジョンカメラやコンピュータグラフィックス(CG)による高精細映像技術が、壮大な宇宙体験を私たちにもたらしてくれた。宇宙は複雑である。その複雑さを高精細映像で再現することで、映像が私たちに臨場感を与えてくれる。宇宙映像が人々にもたらす夢やロマンは、最新の技術開発によりもたらされる高精細映像と、それを人々に届けるコンテンツ制作とのコラボレーションが不可欠である。このフォーラムは、未来に向けたテクノロジーとコンテンツをつなぐ場を目指している。

■プレゼンター



NASA、国際宇宙センターから数ヶ月ごとに提供される高精細な「宇宙動画」システム等を紹介します。

ロドニー グラブス 氏
NASA DTV Program Manager



NASA ジェット推進研究所(JPL)における宇宙関係の映像コンテンツを具現化する、画像処理を含む多様な映像テクノロジーを紹介。

鈴木 繁 氏
カリフォルニア工科大学 ジェット推進研究所(JPL)
機器ソフトウェア・科学データシステム セクションエンジニア



NHKは、これまで長い間、神秘的な宇宙を最先端テクノロジー等によりビジュアル化し、視聴者にわかりやすく伝える放送番組の制作に取り組んできている。このシンポジウムでは、代表的な番組の制作事例をもとに、その概要を紹介。

石井 太郎 氏
日本放送協会 制作局 第1制作センター 科学・環境番組部 チーフ・ディレクター



NHK「宇宙の渚」は3本シリーズで放送され好評を博した。番組では宇宙飛行士が見たものと同じ景色がハイビジョンの美しい映像で提供された。このシンポジウムでは、視聴者が、この番組を通じて、人生観や世界観が変わるようなインパクトを感じる映像デザインについて具体的な事例を紹介。

倉田 裕史 氏
株式会社NHK アート 番組美術センター
デジタルデザイン部 CG映像 アートディレクター

■司会・進行



為ヶ谷 秀一 氏
女子美術大学 大学院 教授



國重 静司 氏
株式会社NHK アート 取締役

神秘的で美しい「宇宙」を体感
高臨場感映像テクノロジーの進化